

13億人以上が絶対的貧困の中で生活し、富裕国と貧困国との格差は拡大し続け、先進国内の貧富の差も拡大し続けている現状において、貧困は国際政治経済問題の大きな領域である。本講義では、概説、第三世界都市貧困の現状、貧困者の運動及びその可能性、貧困解消に取り組む住民・NGO・国家・国際機関の役割、時間があれば先進国内の貧困問題等について種々の実例を紹介しながら考察してみる。

### [ 評価方法 ]

出席及びレポートで評価する。なお、講義を3回以上欠席したものは、理由の如何を問わず、レポートの提出資格を失うものとする。レポートは2種類(以下A, B)提出する必要がある(提出時にホッチキス等でまとめておくこと)。Aは各回の講義ごとに、その中で自分が学んだことを300字以上でまとめて、最後の授業日にまとめて提出する。Bは[レポート執筆要領](#)による。

[ テキスト ] なし。参考文献についてはその都度紹介する。

### [ 授業計画 ](スケジュール)

1. 第三世界の貧困問題概説
  2. 貧富の格差(所得不平等)
  3. 貧困の罨
  4. アジアの都市貧困層の現状と開発政策における位置付け  
**<アジアの貧困者の厳しい現実>**
  5. 開発と都市貧困層(アジアの例)
  6. 政府開発援助(ODA)による大規模プロジェクトと貧困層/居住権  
**<アジアの都市スラムの人々の可能性>**
- 7-12: タイ、インド、パキスタン、カンボジア、インドネシア、韓国等をもとに
- ・土地・住居へのアクセス
  - ・貧困者居住運動の歴史
  - ・信用・市場へのアクセス
  - ・貧困者経験交流、エンパワーメント
  - ・専門家の役割
  - ・貧困者のスペースの拡大、People's Process の発展と社会変革。
  - ・パキスタン、タイ、カンボジアにおける People's Process の発展。
  - ・国際機関、構造調整プログラム、NGOの問題。
13. 先進国内の貧困の現状(時間があれば)
    - ・グローバリゼーションと貧富の差の拡大。日本の野宿者